

カチボシ® Lフロアブル

■種類名：イプフェンカルバゾン・テフリルトリオン・ベンスルフロンメチル水和剤
 ■有効成分：イプフェンカルバゾン-----5.0%
 テフリルトリオン-----4.0%
 ベンスルフロンメチル-----1.0%

■登録番号：第23512号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2014.09.10
 ■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
 ■有効年限：3年
 ■包装：500ml x 20本、2ℓ x 6本

【特長】

- 新規有効成分イプフェンカルバゾンがノビエの発生を長期間抑える。
- SU抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナ類等に高い効果を示す。
- ウリカワ、ミズガヤツリ等に高い効果を示す。

【適用内容】(2015年5月13日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ミズガヤツリ、ウリカワ クログワイ(九州を除く) オモダカ(北陸、近畿・中国・四国) ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離(関東・東山・東海)	移植時	壤土 ～ 埴土	500ml /10a	1回	田植同時 散布機で 施用	北陸
		移植直後～ ノビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで	砂壤土 ～ 埴土				関東・東山・東海、 近畿・中国・四国、 九州の普通期及び 早期栽培地帯
			壤土 ～ 埴土			原液湛水 散布	北陸
			移植後 5 日～ ノビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで				

イプフェンカルバゾンを含む農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用前に容器をよく振ってから使用すること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで(ミズガヤツリ、ウリカワの北陸は発生始期まで)、クログワイ、オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。オモダカ、クログワイは発生の期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 散布に当っては水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- 苗の植え付けが均一となるように代かきを丁寧に行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特に丁寧に行うこと。
- 本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用を避けること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 梅雨期等、散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稲用薬剤以外に使用しないこと。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。

- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。